



「声」の欄・投稿規定

- ★「声」の欄は読者の皆さんのお考えを、直接誌面に反映させるためのページです。皮膚病の診療に関する日ごろのご意見、新しいアイデア、ご提言などをお気軽にお寄せください。とくに日夜第一線で診療に活躍しておられる先生方からのご投稿を切望します。
- ★「声」の欄には、また皮膚病に関する“質疑応答”を取り上げます。お寄せいただいたご質問は、その方面の権威に依頼して適切な回答を用意し、誌上で発表いたします。とくに回答者を指名されても結構です。
- ★字数は一般のご投稿は1,200字以内、質問は600字以内を原則とします。
- ★ご投稿は郵送のほか、FAX（番号：03-3984-1003）とE-mail（アドレス：hs1979@intage.com）にても受け付けております。
- ★原稿には住所・氏名を明記していただきます。

「花粉症皮膚炎」様皮膚炎？

毎年春になると、目の周りが腫れて痒くなる患者さんが増える。たいがい花粉症があり、花粉症皮膚炎の診断になるが、中には「目も鼻も症状はないけれど、この時期は目の周りが腫れて痒くなる」方もいて、最近増えたような印象がある。臨床像は花粉症皮膚炎そのものであるが、花粉症がないので花粉症皮膚炎とは診断できず、不思議と時期が過ぎればみることもなくなる。粘膜症状を伴わない花粉症皮膚炎などはあるのだろうか？

石川 博康
(八戸市・湊高台皮膚科)

【コメント】

スギ花粉飛散時期に眼瞼に軽度の湿疹病変を伴う患者が多くなることは、周知の通りです。当院での集計を2006年の『皮膚病診療』に掲載しました。古い集計ですが、眼瞼の皮膚炎を主訴に来院した患者の46%に飛散時期のくしゃみ、鼻汁、目の痒みといったスギ花粉症の自覚症状がありました。一方で、アレルゲンスクラッチエキストリイ[®]を用いたプリックテストを行うと、77%が陽性でした。つまり30%の患者は“隠れスギ花粉症”ということになります。ということで、眼瞼の皮膚炎では、いわゆる air-borne アレルゲンの関与が少なくないので、原因検索のためにはプリックテストを施行するのがよいと考えています。以下の論文をご参照ください。

「とくにスギ花粉飛散時にみられる眼瞼の皮膚炎について」皮膚病診療 28巻2号 p.142-150, 2006年

浅井 俊弥
(横浜市・浅井皮膚科クリニック)